

第1学年 英語科学習指導案

日 時 令和2年9月28日(月) 公開授業2
学 級 遠野市立遠野中学校 1年4組26名
授業者 教諭 齋藤 圭太

1 単元名 Program 6 由紀のイギリス旅行 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 開隆堂)

2 内容のまとめ (1) 言語活動 イ 話すこと

3 単元の目標

- (1) 間違いを恐れず積極的に英語を話そうとしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 身近な人や好きな人について紹介する。【外国語表現の能力】
- (3) 本文の内容や友達の発表内容を正しく理解する。【外国語理解の能力】
- (4) 三人称単数現在の肯定文、疑問文とその応答、否定文の用法を理解する。
【言語や文化の知識理解】

4 単元について

(1) 生徒について

- ア 発表会(パフォーマンステスト)に使える表現を幅広く身につけるために、継続して基本本文の定着を図る帯活動に取り組んでいる。
- イ 1学期には、自己紹介の発表会を、司会、質問、意見を全て英語で行うことを目指して取り組んだ。
- ウ 積極的に英語を使おうとする姿勢があるが、文法の知識を話すことに結びつけたり、発音や抑揚、イントネーションに意識を向けたりすることについては、まだ十分とは言えない。

(2) 教材について

- ア 一般動詞の三人称単数現在の肯定文、疑問文とその応答、否定文の用法を扱う。
- イ My Project1での自己紹介のパフォーマンステストを想起し、今回は第三者の紹介として、身近な人やよく知っている人についてのパフォーマンステストを行う。

(3) 指導について

- ア ルーブリックや振り返りシートを活用し、課題意識を持続させ、単元のゴールを見通しながら、目的意識や必要感を持たせて学習を進めていく。
- イ 他者を紹介するために必要な言語材料がProgram5とProgram6にまたがっているため、今回は2単元合わせて一つのパフォーマンステストを行うこととした。
- ウ パフォーマンステストは「身近な人や好きな人を紹介しよう」(話すこと・発表)とし、司会、質問や意見も英語で行うことで、「話すこと・やり取り」も達成したい。
- エ 本時は、次の時間に行うパフォーマンステスト本番に向けて、発表だけでなく、司会や質問、意見も全て英語で行うことに、グループワークでチャレンジする場面である。より良い発表会にするために、発表者だけでなく、聞き手も参加する意識をもち、お互いの発表を高め合っていきたい。

5 遠野中学校の研究との関わり

【研究主題】「主体的に学ぶ生徒の育成 ～自分の考えをもち、関わり合う授業を通して～」

視点1 「課題意識の持続」…ルーブリックを用いて、単元や1単位時間のゴール、目指す姿を明確に示し、課題意識を持続させる。

視点2 「達成状況の把握」…振り返りシート、パフォーマンステスト、テスト後の原稿、ペーパーテストで把握する。

視点3 「関わり合う場面の設定」…グループでの発表を通して、互いにアドバイスを交換する活動を設ける。その際、グループは固定せず、メンバーチェンジをしながら交流の幅を広げる。また、タブレットを用いて友達の良さを全体で共有し、各自の発表を改善したりすることで、学びを深める。【B:他者との関わり合い】

6 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化の知識理解
ルーブリックのBを達成できるよう、間違いを恐れず積極的に英語を話そうとしている。	身近な人や好きな人について紹介することができる。	本文の内容や友達の発表内容を正しく理解することができる。	三人称単数現在の肯定文、疑問文とその応答、否定文の用法を理解している。

7 指導と評価の計画 (10時間扱い ※本時はその9時間目)

時間	ねらい・学習活動	重点「評価規準」	評価(方法)
※	・単元のゴールを示す。(ルーブリックを配付) (Program5で確認済み)		
1	・3単元のsに気をつけて友達のことを紹介できる。	エ	観察 発表 後日ペーパーテスト
2	・Does～?を使って友達のすることや、好きなことを聞いたり答えたりできる。	エ	観察 発表 後日ペーパーテスト
3	・本文の内容を理解する。	ウ	観察 後日ペーパーテスト
4	・本文の内容をアレンジする。	ウ	観察 ワークシート 後日ペーパーテスト
5	・アレンジしたものをグループごとに発表する。	ウ	発表
6	・紹介したい人について、マッピングを作成する。	ア	観察 ノート
7	・でき上がったところまでマッピングをもとに発表練習をし、さらに修正を加える。	ア	観察 ノート
8	・スピーチ練習をする。(ペア)	ア	観察
9	・スピーチ練習をする。(グループ)	ア	観察
10	・身近な人や好きな人を紹介できる。	イ	パフォーマンステスト

8 本時の指導 (9時間目/全10時間)

(1) 目標

ア パフォーマンステストに向けて、間違いを恐れず積極的に英語を話そうとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

イ グループでの発表会を通して、お互いのスピーチを高め合うことができる。

【外国語表現の能力】

(2) 展開

過程	学習内容	生徒の活動	●評価 ・指導上の留意点
導入 5分	1 あいさつ	ex)Hello, everyone. What time do you usually eat dinner?	<ul style="list-style-type: none"> ・ +1 question のあいさつ ・ 既習の基本文の復習、定着を図る。
	2 帯活動	・ クリスクロス ex)T ”健二は英語が好きですか?” S ”Does Kenji like English?”	
	3 学習課題の設定	・ 本時のゴールを知る。	
学習課題：グループ発表会を通して、ワンランク上の発表を目指そう			
展開 40分	4 達成目標の確認	・ パフォーマンステストの目標ランクの設定、確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点1 パフォーマンステスト本番の自分の姿を意識し、発表者・聞き手として本時に力を伸ばす点を確認し、本時の課題意識を明確にする。
	5 グループ発表会①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4人グループでの発表 ex) Now, let's begin! Who goes first? ○○, please./ Thank you. Do you have any questions? ex) ・ Excuse me, I have a question. Does he~? ・ Your speech is great! Because~. 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が進行役を務める。 ・ 進行を含め、質疑応答や感想の交流、アドバイスなど、できるだけ英語で進める。 ・ 一人の発表者につき、必ず一人一発言をする。 ●ア 身近な人や好きな人のことを伝えようという姿勢で発表しようとしているか。
	6 良いモデルの発表	・ 友達の発表の良さを共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点3 内容、英語運用面、意欲的な発表といった点について優れている発表を共有し、各自の発表の改善に生かす。 ex) 三単現の正確さ、ジェスチャー、ボリューム、発音、抑揚、リズム、スピード感、視線、聞き手にわかりやすい発表となっているか、など
	7 発表内容の修正	・ 個人でマッピングの修正・改善や発表練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表会①や良いモデルの発表から、発表会②に向けて改善する点を明確にする。 ・ 進まない生徒への支援をする。
	8 グループ発表会②	・ 4人グループでの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進め方はグループ発表会①と同じ。 ●イ 1回目の発表よりも改善され、各自の目標をクリアする発表になっているか。
終末 5分	9 振り返り	・ 振り返りシートに記入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点2 本時の課題の達成状況、本時で改善されたところや良くなったところ、次時の目標について記入する。
	10 次時の確認	・ パフォーマンステストの目標ランクの再確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の成果を踏まえて、パフォーマンステスト本番の目標ランクを再設定する。
	11 あいさつ		